

## 国語の点をとるには その1 正しく読む力

## 00年度 2学期中間テスト結果(高森台中)

左表は10月初めにあった中間テストの塾生平均と学年平均、そしてその差です。

どの科目も塾生平均は高いのですが、明らかに国語のみ学年平均との差が小さいのがわかります。

	国語	社会	数学	理科	英語	合計
中3平均	75.4	89.4	94.1	95.5	92.6	447.0
学年平均	63.8	66.4	61.6	74.8	63.8	330.9
差	11.6	23.0	32.5	20.7	28.8	116.6
中2平均	78.6	87.1	91.8	86.9	90.9	435.3
学年平均	58.9	60.5	52.1	51.5	56.6	279.6
差	19.7	26.6	39.7	35.4	34.3	155.7
中1平均	81.9	83.7	94.7	90.3	93.4	444.0
学年平均	63.5	59.0	65.3	62.5	63.2	313.4
差	18.4	24.7	29.4	27.8	30.2	130.6

英数は平常の指導教科

であり、現在の高森中の作問レベルからすれば、90点を超す塾生平均は当然かもしれません。また理科・社会は、一時的な丸暗記でもかなり得点が取れることは事実ですので、塾生諸君の真面目なテスト勉強の成果と言ってもよいでしょう。しかし国語だけは、そうはいかないようです。

国語の得点を一番早く上げる方法は、「問題文をよく読む」ことです。

それだけで10点以上得点上がる人が多くいると思います。たとえば、「…文中から書き抜きなさい」という設問に対して勝手に表現を変えて答えたり、「…一文を選び、最初の5文字を書きなさい」というのに、文中の該当部分を書いたりする。

数学・算数でいえば、計算ミスにも似たこうしたミスは、本人が「本当はわかっていた」と思っているがゆえに、なかなか直らないケースがあります。

また、もう一步踏み込んでいえば、「書き抜きなさい」という言葉を使っていないということは、「絶対に本文をそのまま書いてはいけない」というヒントを言ってくれていることと同じなのです。そこに字数制限などがあれば、まさに該当部分のどこを削るべきかがわかっているかを見ている問題なのです。

もちろん、「…はなぜですか」に対して「…から(ので)」と答えたり、「…どういうことですか」に対しては、「…であること」のように答えることも、問題文をきちんと読むことで失点を防ぐことができます。

このように書くと、「ずいぶん点を取ることにこだわった方法で、そんなのでは本当の国語の力はつかない」と言われそうですが、それは私もそう思います。総合的な日本語の力をつける方法は、確かに多くの本に親しみ、文を書き、言葉で表現しつつ、一生かけて伸ばしていくものだと思います。それは百も承知で、「国語のペーパーテストでいかにして高得点をとるか」という「技術」についての話を、何回かにわけて述べさせていただこうと思います。